

米金利低下で新興国市場に注目

ポイント① 新興国債券市場が有望

米国では、財政刺激策の効果一巡、これまでの利上げの累積的影響、米中貿易・経済摩擦などにより、景気減速観測が強まっています。これを受けて追加利上げの公算が小さくなり債券利回りが低下し、債券価格が上昇しました。ただ、既に米国債利回りは低水準にあり、さらなる利回り低下には限界があるでしょう。

こうした環境下では、新興国債券への投資が有望です。現状では米国債に対する利回り格差が大きく、金利収入が確保できます。さらに、米国債利回り低下で新興国へ資金が流入し、新興国債利回りが大きく低下して債券価格の上昇も狙えるでしょう。

ポイント② 米ドル安は新興国株に有利

株式市場でも、図2が示すように米金利が低下して米ドルが下落すると、新興国株が先進国株を相対的にアウトパフォームする傾向が伺われます。

ただ、世界景気が鈍化すると新興国株式市場への影響は免れず、株価の回復は債券価格より遅れる可能性があります。

ポイント③ 円高ドル安には注意が必要

新興国市場に投資する際、どの通貨に実質的に投資を行なうかも重要です。

米金利低下の環境では円高米ドル安が想定されるため、ドル建て新興国債券を円ヘッジするか、実質的に新興国通貨に投資するかが望ましいと考えています。

実質的に新興国通貨に投資した場合、米金利低下により円高米ドル安になると、新興国通貨も円に対して下落する可能性があります。ただ、新興国の金利が高いため、通貨下落分を考慮してもリターンが高くなることが期待できます。

為替をヘッジして投資を行えば、ヘッジ・コストがかかりますが、為替変動リスクを避けることができます。リスクを抑えながら良好なリターンを期待できると考えます。

図1：米国債と新興国債の利回り

期間：2010年1月1日～2019年1月25日、週次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米ドルと新興国株の相対パフォーマンス

期間：1991年1月4日～2019年1月25日、週次



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

3月1日	米国が設定した米中経済交渉期限
3月20日	米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。